

大阪いばらきキャンパス(OIC)



お問い合わせ先

立命館大学OIC独立研究科事務室
(テクノロジー・マネジメント研究科)

〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町2-150

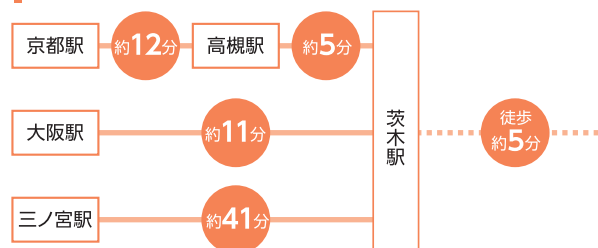
TEL:072-665-2100 / FAX:072-665-2109

E-mail: motkoho@st.ritsumeai.ac.jp

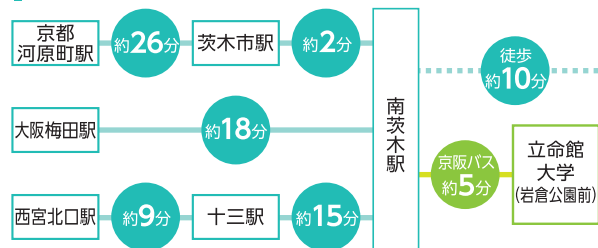
<https://www.ritsumeai.ac.jp/mot/>



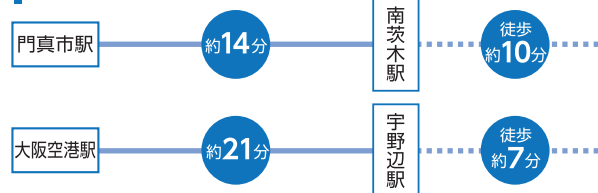
JRでお越しの方は



阪急電鉄でお越しの方は



大阪モノレールでお越しの方は



京阪バスでお越しの方は



※所要時間に乗り換え時間は含みません。

大阪いばらきキャンパス



立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科

立命館 MOT

Graduate School of Technology Management





All for innovation, innovation for all.

立命館大学大学院
テクノロジー・マネジメント研究科 研究科長
湊 宣明 Nobuaki MINATO

立命館MOT(Management of Technology)は、技術経営とイノベーションを探究する大学院として2005年に誕生し、まもなく創立20周年を迎えます。この間、科学技術を基礎とした専門分野の技術・知識を戦略的にマネジメントし、イノベーションを創出できる人材の育成に努めてまいりました。修了生の数は既に842名(前期課程790名、後期課程52名)に達し、国内有数の技術経営大学院として持続的成長を遂げた成功例といえるでしょう。

なぜ立命館MOTは選ばれるのか。その理由は3つあると考えます。個性の尊重、多様性の確保、実践の重視です。

第一に、我々の大学院は、学生の個性を尊重し、個人がやりたいことを自由に探究できる時間と場所を提供しています。一般的な理系の大学院では教員主導で研究テーマを設定することが多いと思います。しかし、立命館MOTでは、原則として学生個人がそれぞれの問題意識を出発点として研究テーマを選択します。そのため、この大学院で扱うテーマは最先端の技術やビジネスから人間の感性、国際的な社会問題まで多岐にわたります。さらに、複数の教員がその研究を支援する指導体制は2005年の設立時から変わっていません。まさに学生の個性を中心に据えた大学院といえるでしょう。

第二に、我々の大学院にはきわめて多様な学生が集まっています。理系学生と文系学生、学部進学者と社会人経験者、日本人と留学生などが、講義中にグループを形成して学び合います。バックグラウンドの異なる学生がもたらす多様な価値観と知識が融合し、互いに刺激を与え合うことで、イノベーションの源泉となる斬新な発想が生み出されます。この融合環境を維持するため、研究室毎の独立した部屋と机を用意するのではなく、あえて大部屋方式を採用し、異なる研究室の学生が机を並べて自由に交流できるよう配慮しています。イノベーション研究の大家であるシュンペーターは「新結合こそが革新を生み出す」と主張しました。偶然の出会いや新しい組み合わせが自然に生まれる環境を大学院に作り出しています。

第三に、我々の大学院は、講義で理論としての知識を学ぶだけではなく、知識を実践で使う経験を重視した教育設計をしています。MOTの研究者・実務家であるクリス・フロイドは「テクノロジー(技術)とは知識そのものではなく、知識の応用化である」と述べています。つまり、知識を問題の解決に応用できるようになってこそ、テクノロジーをマネジメントしたと言えるのです。そのため、多くの講義では過去の実例を基にしたケーススタディーやグループ演習を行うほか、商品企画やサービスデザイン、新事業開発、生産管理、プロジェクトマネジメントを疑似的に体験する機会も豊富です。さらに、課題解決型長期企業実習(プラクティカム)では、今まさに企業等が実務で直面する課題に対して、チーム一丸となってソリューションを設計し、経営陣にプレゼンテーションする機会を得ることができます。イノベーションを興すための実践的なトレーニングがこの大学院にすべて揃っているといえるでしょう。

すなわち、立命館MOTは、価値観と専門性が多様に融合する環境で、個人がやりたいことを発見し、未来に向けて自己実現できる大学院として、これからも社会に貢献し続けます。大学院で学ぶことは、一定の金銭的・時間的・体力的な投資を要する、覚悟の必要な意思決定です。しかし、皆さんが経験する前期課程の2年間、後期課程の3年間は驚くほどのスピードで過ぎ去り、人生においてかけがえのない経験価値をもたらすと確信できます。我々の大学院で技術経営学という新しい学問に出会い、熱意にあふれた同級生と学び合いながら、それぞれの人生にイノベーションを興していただきたいと思います。

All for innovation, innovation for all.
(すべてはイノベーションのために。イノベーションは皆のために。)

教育の特徴

文理融合の開講科目

技術経営の基礎として、戦略論や組織論などの経営学、さらに統計、数理、ケーススタディなどの方法論について、幅広く学ぶことができる授業科目が提供されています。

多様な学生とのインタラクティブな講義

ワークショップやグループディスカッション、プレゼンテーションなど、インタラクティブな手法を取り入れています。社会人学生・留学生など多様なバックグラウンドを持つ学生同士が議論を戦わせます。

クォーター制の採用

1年を4期に分けるクォーター制を導入しています。1科目あたり3時間の講義を8回、約2ヶ月で履修できます。仕事が比較的忙しくない時期に集中して学ぶことが可能です。夏期集中やセメスター制で運用している講義もあります。

他研究科科目履修など柔軟な受講制度

研究活動の幅を広げるために、立命館大学大学院の他研究科の開講科目を一部受講することができます。また、科目等履修生制度や聴講生制度を利用して入学前に1科目から履修することも可能です。

実務経験豊富な教員・講師陣

メーカーや金融機関、コンサルティング会社などで実務を経験した教員が揃っています。また、現役の企業人を客員教授やゲストスピーカーとして招いており、業界を越えた知識や俯瞰的な視点を学ぶチャンスにあふれています。

企業でのアクションラーニング(プラクティカム)

理論と実践の習得をめざして、インターンシップを発展させた「プラクティカム」を実施しています。その特徴は、企業が抱える課題に学生が取り組む「課題解決型長期企業実習」です。

平日夜間、土曜日開講

立命館MOTでは社会人も多く受講しています。平日夜間と土曜日の科目だけで修了に必要な単位を取得することが可能です。社会人学生の場合、必要に応じて研究指導を平日夜間や土曜日に行います。土曜日開講の科目を多く設置していますので、働きながら無理なく学位を取得できます。

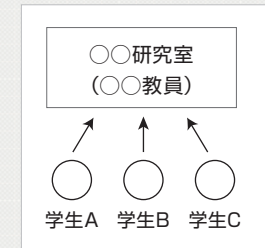
ドイツへの海外長期派遣プログラム

立命館MOTとハンブルク工科大学大学院マネジメントサイエンス・テクノロジー研究科との間で、大学院生受入の協定Student Exchange Programが締結されており、6ヶ月～1年間の海外研究の機会が準備されています。

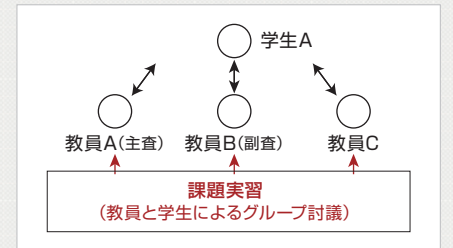
複数指導教員体制

MOTの研究範囲は広範囲におよび、技術戦略、ファイナンス、知的財産、組織戦略などを複合的に考察しなければなりません。そのため、複数名の教員で指導する体制をとっています。演習(ゼミ)指導や論文の主査となる教員以外に、複数の教員から指導を受けることが可能です。実際、メインとなる演習(ゼミ)に関わらず、他のゼミにも顔を出す学生が多く存在します。教員同士が連携をとり、課題解決に最適な解を見出せる体制を確保しています。積極的に多様な教員のリソースを活用してください。

従来の教育スタイル



テクノロジー・マネジメント研究科の教育スタイル



修士論文テーマ例

- 仮想空間技術が集団のコミュニケーションと心理的安全性に及ぼす影響
- スタートアップ企業における、創業目的に応じた経営課題とその解決策 ー研究開発型スタートアップ企業におけるビジネス人材の役割ー
- 感動駆動型宇宙利用における映像酔いの低減方法に関する研究
- 動的ベルソナを用いた人材像の設計手法に関する研究
- 中国のデジタルヘルスAPPに対する継続利用意図への影響要因に関する研究
- 日系電気自動車のスマートコックピットが中国消費者の購入意欲に与える影響
- バーチャルYouTuberの外見的特徴が視聴者の選択意図に与える影響
- 開発中の製品前倒しPRの信頼性 ースマートフォン産業を中心にー
- AI スピーカーの擬人化がユーザーの購買意欲に与える影響 ー社会的認知と信頼の媒介効果ー
- オープン・イノベーションにおける組織スラックが企業業績に与える影響に関する研究
- 管理職の文化的知性が従業員の革新的行動に及ぼす影響 ー心理的安全性を媒介変数としてー
- 知識型リーダーシップが従業員の革新的行動に与える影響について ー知識共有を仲介としてー

博士論文テーマ例

- Maximization of Energy Safety Using Neuro-Fuzzy Systems (ニューロ・ファジシステムを用いたエネルギー安全性の最大化)
- E-commerce adoption in developing countries (発展途上国における電子商取引の適用に関する研究)
- バイオ医薬の創成期における組織間連携の時系列分析 ー連携の目的とタイミングにおける日本と海外の違いー
- 電子デバイス事業における後発優位のメカニズム ーイノベーションダイナミクスの与える影響ー
- ノウハウ保護のための特許制度と方法の発明の保護戦略 ー先使用権の法的解釈と方法の発明の保護戦略マトリクスの提案ー
- 個別嗜好に対応するカスタマイズ商品の設計プロセスに関する研究

開講科目

基礎科目	展開科目	研究指導科目
コア科目(修了要件:6単位以上)	プログラム科目	<技術経営演習Ⅰ・Ⅱ(各2単位)> <技術経営研究Ⅰ・Ⅱ(各2単位)*必修>
修了に必要な単位数	コア科目6単位以上と「技術経営研究Ⅰ」および「技術経営研究Ⅱ」の計4単位を含めて34単位以上必要です。 加えて、必要な研究指導を受けた上で、修士論文を提出し、かつその審査および最終試験に合格しなければなりません。	

設置科目一覧	*設置科目一覧については今後変更になる可能性があります。 *科目等履修制度、聴講生制度ではプラクティカムⅠⅡ・技術経営研究ⅠⅡは履修できません。
--------	--

技術経営論Ⅰ	技術経営の全体像を把握し、グループ演習を通じて諸産業に潜む課題について学ぶ。本講義では、イノベーションに関わる経営理論を確認するとともに、企業の具体的な事例に触れることで技術と経営との関係を概観する。技術経営の概論的な講義に加え、グループ毎の調査報告を基にしたディスカッションを行う。	技術経営論Ⅱ	技術経営の事例分析と解決案の構想・提案を通して、戦略思考の理解と実践の基礎を学ぶ。本講義では、産業や技術領域にとらわれず事例を検討することで、組織や戦略に関する理解を深める。課題として配布された資料に基づき理論的な論説および事例を検討し、プレゼンテーションを行い、その内容を討議した後、総括を行う。
技術経営論Ⅲ	技術経営の事例を理論モデルの視点から理解し、イノベーション創造の経営スキルについて学ぶ。本講義では、技術経営を理論と実践の両面から議論することで、イノベーションマネジメントの要諦を考察する。さらに、企業がイノベーション能力をどのように強化することが望ましいかについて論じる。	戦略的技術開発論	新製品・新サービスの収益化を目的とした技術戦略について学ぶ。本講義では、新製品・新サービスの収益化の基本としての経営戦略やマーケティングの重点をおさえた上で、イノベーション、技術戦略、研究開発マネジメントなどについて議論する。
技術経営組織論	経営組織について諸理論を整理した上で、イノベーションへの組織的な対応を学ぶ。イノベーションが創造され実践される組織の在り方は、イノベーションの成功と失敗に大きな影響を与える要因の一つである。本講義では、組織構造、鍵となる人材の役割、仕事の組織化などの観点から考察する。	技術基盤企業のマーケティング	マーケティングの基礎知識を定着させつつ、市場ニーズを踏まえたプロダクトの設計手法を学ぶ。本講義は、マーケティングを理論的・体系的に学習したことのない者が、商品のコンセプト開発力を身に付けることを目的とする。最新のマーケティング事例や分析手法を紹介するとともに、プロジェクト演習により実践的なマーケティング力を身に付ける。
会計・財務	簿記の基本スキルを修得しながら、会計情報の役割と分析手法について学ぶ。本講義では、履修者が会計知識を有していないことを前提とした上で、財務会計の基礎知識から講義を始め、最終的にその本質的な理解を可能とする講義を行う。シミュレーション演習を行うなど、知識を体得できるよう工夫する。	ファイナンス戦略	企業における財務計画の策定と運用の要点について学ぶ。技術経営は中長期的な企業価値の向上を目標とするものであるが、本講義では、そもそも企業価値とは何か、そのためには資本調達と財務構造をどうすべきか、収益力と財務健全性の高い企業とするためにはどうすればよいのか等について学習する。
技術基盤企業のヒューマンリソースマネジメント	技術を製品やサービスとして具現化するための人材マネジメント、組織の動かし方について学ぶ。技術基盤企業にとって、技術だけでは製品やサービスを実現することはできず、製品化、事業化、産業化を実行する人材が必要である。本講義では、イノベーションを実現するための企業における人材活用の在り方について考察する。	技術・知財関連法	特許法等の知的財産法を体系的に俯瞰し、判例などを通じて知的財産制度の仕組みを学ぶ。本講義では、工業所有権法の学習を通じて、日本の知財戦略に対する政策を学び、企業がどのように知財を活用し保護しているかを考える。特許法、実用新案法、意匠法、商標法、その他、著作権法、不正競争防止法について学ぶ。
知財戦略論	知的財産シーズに基づくビジネスモデルを分析フレームワークにより提案する方法を学ぶ。知財戦略論は、市場分析、技術戦略論、及び研究開発論と密接に関係している。本講義では、分析フレームワークを用いて製品開発における市場分析を行い、技術戦略論及び研究開発論を学ぶとともに、知財権の基礎を学ぶ。	価値創出マネジメント	デザイン／マーケット思考で、マネジメントツールによる価値創造を学ぶ。本講義では、「価値とは何か」、「価値をどのように補足するか」、「価値をどう作りこむか」をグループワークで議論しながら、製品・サービス・ビジネスを企画、開発、設計するシステムティックな方法論をプロジェクト形式で学ぶ。
技術基盤企業のプロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメントの基本を習得し、新製品開発、新規事業への応用方法を学ぶ。新規事業開発、新製品開発、ビジネスモデル開発などにおいては、プロジェクトを計画し、進捗管理を行い、定義された目的を達成する。プロジェクトマネジメントを疑似体験し、その意義と課題について考える機会を提供する。	技術経営研究方法論	科学的アプローチとして求められる研究方法と論文執筆に関する知識を学ぶ。本講義では、技術経営に関する修士論文の要件を理解した上で、研究方法と論文執筆に必要な基礎知識を身に着ける。リサーチ戦略の種類と研究フレームワーク、既存文献のレビュー方法を中心に講義を行う。
新技術および新事業の提案・企画・評価演習	事業計画策定の基礎知識と技能を修得し、模擬的な計画案を策定する演習を行う。本講義は、新技術および新事業の提案、企画、評価に関する実践的な内容とする。受講生が、技術マーケティング、市場予測、ファイナンス、会計、技術・知財評価、事業価値評価などの知識を総合的に活用し、ビジネスプランを作成する。	研究開発戦略	研究開発投資に関する不確実性を克服するための戦略論について、理論・事例の両面から学ぶ。本講義では、企業が研究開発を実施し、イノベーションに結びつけるまでの不確実性を考察し、これを克服してイノベーションを実現するための戦略論を提示する。具体的な事例と議論を通じて研究開発戦略立案に必要な知識を習得する。
技術・事業評価論	企業が所有する有形・無形の技術資源に関する事業価値の評価方法を学ぶ。本講義では、技術・事業評価の意義、目的、技術の探索、普及、予測などについて学びつつ、技術(知的財産を含む)と事業の価値算定の基本的な考え方を講義とグループ演習を通じて習得する。	技術倫理	技術倫理の基本的な考え方と事例について学ぶ。本講義では、技術倫理の基本を理解した上で、技術倫理が問われた代表的な事例をとりあげながら議論を進める。組織やチームを率いるリーダーとしての責任についても考察する。
技術経営史	技術経営の多様な歴史事例の学習を通じて、イノベーションの本質と文脈的特性を学ぶ。本講義では、歴史的事例を活かして、技術経営の実践演習を行う。特に、技術と製品、市場の展開を統合的に洞察する演習を通して、技術経営の本質を把握する。さらに、テクノロジーと技術経営の文明の盛衰における役割について考察する。	サービスイノベーション	デジタル技術を活用して付加価値の高い製品やサービスを創出する手法について学ぶ。本講義では、プロダクトの状態やビジネス環境を予測し最適化するモデルベースアプローチ、及びシステムズエンジニアリングの基礎を概観した上で、グループワークを通じてデジタル技術を駆使したサービス革新力を身につける。
技術基盤企業の戦略経営	技術を基盤とする企業にとって必要な戦略経営の基礎を学ぶ。本講義では、企業の戦略及び戦略経営に関わる基本概念を提示し、理論のみならず実際の事例に即しながら、戦略経営の枠組みについて概説する。産業や技術の発展過程と戦略経営の関係を検討した上で、ハイテク産業と成熟産業における戦略経営を分析する。	国際知的財産	諸外国の知的財産制度の基礎知識に加えて、知的財産の観点から企業の競争力を学ぶ。知的財産のグローバル化に対応するためには、諸外国の知的財産制度、裁判制度、判例、及びこれまでの企業側の対応の事例を把握する必要がある。本講義では、知的財産の国際的な意義、具体的な法制度、判例、及び事例について学習する。

企業リスク・マネジメント	企業を取り巻くリスクとそのマネジメントについて体系的に学習し、リスクへの対応力を身につける。今日の企業環境は変化のスピードが速く、リスク・マネジメントの重要性が高まっている。本講義では、リスク・マネジメントの意義と基本概念を概説した上で、事例研究や討議を交えながら、リスク測定の手法等について学習する。
--------------	---

バリューチェーンマネジメント	モデリングツールを使ったバリューチェーン設計、業務改革の手法について学ぶ。バリューチェーンマネジメントとは、戦略実現のためにオペレーションを統合、最適化する概念である。本講義では、オープンイノベーション等の重要概念を学びつつ、モデルベースでバリューチェーンマネジメントを最適設計する演習を行う。
----------------	---

起業家戦略	アントレプレナーシップを理解し、スタートアップ企業の特徴と戦略について学ぶ。本講義では、ベンチャー企業の特徴を理解した上で、戦略論、方法論、プロセス論などの理論的なフレームワークに加え、スタートアップ企業のジレンマ、ステージごとの戦略について議論する。
-------	--

管理会計概論	組織における資源配分の計画と業績評価について、会計数値を利用して分析する手法を学ぶ。講義では、①管理会計と会計測定の基本概念と方法、②経営管理行動で必要となる管理会計モデル、③意思決定を支えるモデルとキャッシュフローベースの会計情報との関係について説明する。
--------	---

先端科学技術とビジネス	製造業・サービス業を中心として、産業界における先端科学技術の応用を学ぶ。本講義では、様々な業界から招聘する専門家による講義を通して、先端科学技術をビジネスにつなげるための要件を技術経営の視点から捉える。さらに先端科学技術からビジネスへの展開を促進するための仮説について議論する。
-------------	---

生産プロセスマネジメント	ものづくりイノベーションの実践的考え方と手段について学ぶ。本講義では、歴史的な生産プロセスの進化について概観した上で、グローバルな視点での生産経営の在り方を考える。ものづくりで成功する要素について、顧客満足と経営満足とを両立させる全体最適の観点に立ち、実践的な演習を行う。
--------------	--

特殊講義(知財情報工学)	企業の戦略に基づき、どのように知財情報を調査し、戦略的に活用するかを学ぶ。本講義では、模擬的な研究開発を想定し、研究開発に資するヒントを知財情報(特許文献等)から抽出し、また、知財情報に記載された発明を回避し、より良い製品にするための方策を検討する。また、意匠及び商標の検索について学ぶ。
--------------	--

技術系ベンチャー論	技術系ベンチャー企業を題材として、創業からExit(上場、M&A等)へと至るプロセスについて学ぶ。技術系ベンチャーの事例研究を通じて、技術経営ベンチャーの創業からExitまでの実態、日米のベンチャー環境の違いについて学習する。また、ベンチャー企業の創業、経営を行うために必要となる事項について学ぶ。
-----------	---

ヘルスケア・マネジメント	ヘルスケア事業の知識と商品開発、テーマ企画と実用化について学ぶ。本講義では、ヘルスケア分野を題材として、イノベーション創出のための着想力、テーママネジメント力、実用化推進力の向上を図る。ヘルスケア分野を取巻く社会的背景や市場の特性について把握し、企業や事業、商品、研究開発の事例分析を行う。
--------------	---

Technology ManagementⅠ	This course is concerned with the philosophical perspective of technology management in human resource development, i.e. fostering education of new professionals, capable of integrating managerial skills and technologies. This course aims to extend students' global outlook through the English usage. Students will enrich their knowledge in technical terms in innovation studies in the English language.
------------------------	---

Technology ManagementⅢ	This is an introductory-level modeling and simulation course for practicing technology and innovation management. Innovative technologies such as internet and mobile phone tend to diffuse in a market indicating typical s-shape trajectory overtime. We learn the basics of modeling and simulation techniques to evaluate long-term, dynamic behaviors of innovation diffusion. No prior modeling and simulation experience is required.
------------------------	--

プラクティカムⅠ・Ⅱ	企業内のMOT関連部門等で長期実習(通常3ヶ月から6ヶ月)を行う課題解決型企業実習である。企業が実際に直面している課題を知り、MOTの理論や手法を用いて解決策を提案する。技術経営に関する理論等を実践する場であり、実践を通じて技術経営の意義と役割への理解を深め、課題解決のための戦略等を立案できる能力を培う。また、社会に貢献でき、計画的に業務や研究等を実践することができる能力を培う。
------------	---

技術経営演習Ⅰ	博士課程前期課程1 回生における研究指導科目である。研究倫理について学びつつ、修士研究テーマとなる技術経営課題の探索を行う。また、研究指導教員の助言指導を得ながら、修士研究テーマに関連する国内外事例の調査、及び先行研究の調査等を実践し、研究計画書を作成する。
---------	---

技術経営研究Ⅰ	博士課程前期課程2回生における研究指導科目である。研究倫理について深く理解した上で、各自の修士研究テーマについて、研究指導教員の助言指導を得ながら修士論文としての構想を練る。
---------	---

意思決定論	技術リスクを適切に管理しながら事業化を判断するための意思決定について学ぶ。ディスカッション中心の双方向講義とケーススタディにより、企業戦略、技術開発、個人のキャリアデベロップメントにおける意思決定の体系を理解し、理論と実践の技術を習得する。
-------	--

イノベーション戦略論	イノベーションを企業の成果に結び付けていくための視点や分析手法を学ぶ。企業はイノベーションの担い手であるが、それは企業側の論理のみで成立しない社会的活動である。本講義では、①イノベーションの本質、企業経営への影響、②イノベーションを生み出していく企業組織、③経営成果に繋がる戦略を中心に講義を行う。
------------	---

ITマネジメント	企業経営に情報技術を活用するマネジメント(ITマネジメント)について学ぶ。ITマネジメントのための経営学の基礎と経営情報論について概観し、現状と課題を整理する。ITマネジメントの主要課題について、論文購読と学生による発表・討議を通して考察し、理論と実践の融合を図ったインタラクティブな講義とする。
----------	--

特殊講義(イノベーション・ダイナミクス)	新技術が市場に普及する中で、イノベーションが形成される過程を学ぶ。イノベーションは、誕生、発展、成熟といったライフサイクルを経て社会に普及する。モデリング・シミュレーション技術の習得を通じて、イノベーションの動的な挙動を分析し、戦略的にマネジメントする方法について理解する。
----------------------	---

MOTキャリアデザイン	人がキャリアをデザインする、つまり自分自身の生き方や働き方を描いていく際に参考となる様々な視点を学ぶ。それを自分自身のキャリアに当てはめて考えることを通して、自分のキャリアをデザインする力を身につける。
-------------	---

特殊講義(意思決定のためのデータ分析)	意思決定を支援するデータの収集・分析・可視化の手法について学ぶ。本講義は、オープンデータや統計データなどの2次データ利用に加え、現地でのフィールドワークやGISツールを用いた新たな1次データ生成に取り組み、社会課題をデータドリブンで解決する力を身に付ける。
---------------------	--

特殊講義(交渉戦略と実践)	事例や交渉ゲームを通じてビジネスにおける交渉戦略について学ぶ。ビジネスにおける交渉力次第で、企業の戦略的立場が変化する。本講義では、ディスカッション中心の双方向講義とケーススタディにより、企業戦略やキャリアデベロップメントにおける交渉の戦略と実践技術を習得する。
---------------	---

特殊講義	技術経営に関する最新の課題や課題解決手法について学ぶ。技術経営分野は市場や企業動向の変化が激しいため、時代に即した理論や実践の在り方を模索し、その適用範囲や適用方法を再構築する必要がある。本講義では、最新のトピックを扱うことにより、技術経営の理論と実践がどのように変化しているかを学ぶ。
------	---

特殊講義(外書講読・英語ディスカッション)	外国書籍を読み、英語読解力を身に着けるとともに、技術経営に関する基礎的な知識を学ぶ。本講義では、外国書籍を輪読し、記載されている理論などを題材としたプレゼンテーション及びディスカッションを行う。英語での文章構成を学び、輪読による発表を通じて、理解をどのように伝達するかを考えることができる。
-----------------------	---

Technology ManagementⅡ	This course provides learning opportunities in the field of software engineering from the new perspective of technology management. Literature review of management of technology, especially in the field of software engineering innovation in Japan, will constitute the first part of this course, and students will be required to select journal articles in their own research interests and make presentations at class.
------------------------	--

Special Lecture	This course introduces the latest issues and relevant problem-solving disciplinary in technology management. Due to the increasing velocity of market and corporate change, both theories and practices of MOT necessitates constant updates; that is, both theorists and practitioners are severely pressurized to rebuild the scope as well as the vector of methodological applications, in accordance to their dynamic view of technology management. This course provides active learning experience of the kinetics of theory and practice of technology management through debating the most recent topics.
-----------------	--

技術経営演習Ⅱ	博士課程前期課程1 回生における研究指導科目である。研究倫理について学びつつ、修士研究テーマとなる技術経営課題の設定を行う。また、研究指導教員の助言指導を得ながら、修士研究テーマに関連する先行研究の調査、研究方法の調査を実践し、修士研究の構想について発表する。
---------	--

技術経営研究Ⅱ	博士課程前期課程2回生における研究指導科目である。研究倫理について深く理解した上で、各自の修士研究テーマについて、指導教員の助言指導を得ながら研究成果を修士論文として纏める。
---------	---

科目群	科目名称	科目分野										
		MOT関連科目					経営関連科目			研究手法と社会実装、他		
		テクノロジー・マネジメントの概念的理解	研究開発マネジメントの実践と発展	イノベーション・アントレプレナーシップ	デジタル&オペレーションズマネジメント	知的財産マネジメント	企業事業戦略	会計・財務マネジメント	組織・人材マネジメント	研究手法・データ解析	デザイン&システム思考	社会実装、他
基礎科目	技術経営論Ⅰ	●										
	技術経営論Ⅱ	●										
	技術経営論Ⅲ	●										
コア科目	戦略的技術開発論		●									
	価値創出マネジメント										●	
	新技術および新事業の提案・企画・評価演習			●								
	技術基盤企業のプロジェクトマネジメント				●							
	技術・知財関連法					●						
	知財戦略論					●						
	技術基盤企業のマーケティング										●	
	会計・財務							●				
	ファイナンス戦略							●				
	技術経営組織論								●			
	技術基盤企業のヒューマンリソースマネジメント								●			
	技術経営研究方法論									●		
プログラム科目	Technology managementⅠ	●										
	Technology managementⅡ	●										
	Technology managementⅢ	●										
	特殊講義 (外書講読・英語ディスカッション)											●
	Special Lecture											●
	ブラクティカムⅠ											●
展開科目	ブラクティカムⅡ											●
	先端科学技術とビジネス		●									
	研究開発戦略		●									
	技術・事業評価論		●									
	技術倫理		●									
	技術経営史		●									
	サービスイノベーション										●	
	イノベーション戦略論			●								
	起業家戦略			●								
	特殊講義 (イノベーション・ダイナミクス)			●								
	技術系ベンチャー論			●								
	意思決定論				●							
	バリューチェーンマネジメント				●							
	ITマネジメント				●							
	生産プロセスマネジメント				●							
	国際知的財産					●						
	特殊講義(知財情報工学)					●						
	技術基盤企業の戦略経営						●					
	特殊講義(交渉戦略と実践)						●					
	管理会計概論							●				
	企業リスク・マネジメント								●			
	MOTキャリアデザイン								●			
	特殊講義 (意思決定のためのデータ分析)									●		
	ヘルスケア・マネジメント		●									
	特殊講義											●
研究指導科目	技術経営演習Ⅰ・Ⅱ									●		
	技術経営研究Ⅰ・Ⅱ									●		

立命館MOTを選んだ学生の声



ダイキン工業株式会社 主任技師
博士課程前期課程2回生

藤本 慎一郎 さん

技術とマネジメントのπ型人才を目指す

約20年前に情報通信工学の修士号を取得し、その後就職した企業において情報通信関連の技術職として働いてきました。これから先のキャリアとしてπ型人才を目指し、異なる2つ目の専門を持ちたいと思いMOTに入学することを決めました。現在取り組んでいる研究テーマは、特許の共同出願や企業間の信頼関係を切り口に、オープンイノベーションの取組の評価方法を明らかにすることです。大学で学んだ理論やケーススタディーが、普段の仕事での出来事、課題とリンクすることで自分の頭の中で整理され、冷静に次のアクションを取れたり、言語化して周りとのコミュニケーションできたり、仕事の基礎体力が上がったと実感しています。



ヤンマーパワーテクノロジー株式会社 電動化推進室
博士課程後期課程2回生

福留 未菜 さん

仕事に関連する研究を働きながら進めることができる

入社以来、産業用ディーゼルエンジンの開発業務に携わってきました。エンジンから電動化へのシフトが進む中、市場要求と技術の双方を把握しながら商品コンセプトを創造することに興味をもち始めました。技術を活かすマネジメントを体系的に学ぶだけでなく、仕事内容に関連する分野の研究を働きながらでも進められる環境と指導教官の理解があったことで、後期課程に進学しました。現在は、電動化の普及とカーボンニュートラル達成の関係について、システムダイナミクスを用いた研究を行っています。MOT進学をきっかけに、多様化する産業用パワーソースの商品戦略立案へと担当業務が変わり、授業で学んだ手法を翌日から実践するなど自律的に取り組めています。



立命館大学 情報理工学部出身
博士課程前期課程2回生

佐藤 太星 さん

上流から下流までカバーできるシステムエンジニア

情報理工学部での研究を通して、研究が進んでいるにも関わらず社会に実装されていない技術が多くあることに気付きました。このような技術をどのようにすれば社会に実装し普及させることができるのか疑問に思い、それらを学べるMOTへの進学を決めました。現在の研究テーマは「関西圏におけるeVTOL(Electric Vertical Take-Off and Landing aircraft: 電動垂直離着陸機)の為の新規離着陸場の検討」です。空飛ぶクルマがどのような場所に離着陸すれば、より多くの人に使用してもらえるのかを研究しています。情報理工学部で培った情報技術の知識とMOTで身につけた技術経営の知識を活かし、上流工程から下流工程まで関われるシステムエンジニアになりたいと考えています。



天津外国語大学 日本語専攻出身
博士課程前期課程2回生

XU Jiaqiao さん

豊かな想像力でVUCA時代を乗り越える

学部時代は天津外国語大学で日本語を専攻していました。VUCA時代に活躍するためには、日本語だけでは不十分で、他分野の専門知識や柔軟な発想、豊かな創造力が必要であると感じました。また、その実現に向けた行動力も不可欠なものだと思います。そこで、イノベーションと課題解決の実践教育を重視したMOTに入学しました。ここでは多彩なキャリアをお持ちの先生方による示唆に富むお話はもちろん、多種多様な社会人学生とのディスカッションもでき、何にも代えがたい貴重な経験を積ませてもらっています。将来はMOTで身につけたスキル・ノウハウを活かし、VUCA時代を乗り越え、どのような状況でも対応できる人材になりたいと考えています。



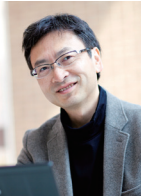
立命館大学 経済学部出身
博士課程前期課程2回生

岡本 宇宙 さん

日本の社会にイノベーションを起こす！

現在の私の研究テーマは、因果推論分析のビジネス場面での応用可能性を検討することです。学部時代は経済学を学び、経済学的検証を目的とした因果推論分析について学んでいました。学問的な検討に加え、より実践に近いビジネス場面での活用法を模索したいと考え本研科への入学を志望しました。MOTでは、授業で学んだことを協力企業の課題解決場面で実践するブラクティカムというプログラムがあります。このプログラムを通じて、私が志望した理由でもある実践力を磨くことができると実感しています。将来はMOTで学んだ課題把握力や実践力を活かし、日本の社会にイノベーションを起こす人材へと成長していきたいと考えています。

実務経験豊富な教員・講師陣



青山 敦 *Atsushi AOYAMA*
教授／Ph.D.(バリュー大学) (株)DataVision代表取締役

<研究分野>
研究開発マネジメント、イノベーションマネジメント、
価値の探究と創出、デジタルトランスフォーメーション、
リスクマネジメント

<経歴> 三菱総合研究所、英国ロンドン大学インペリアルカレッジ研究員、東京工業大学資源化学研究所助教授



小田 哲明 *Tetsuaki ODA*
教授／博士(工学、東京大学)、弁理士、米国弁理士

<研究分野>
知財マネジメント、地域ブランド、ウェル・エイジング

<経歴> フィネガン・ヘンダーソン・ファラボー・ギャレット・ダナー法律事務所(米国)、大阪大学工学研究科特任准教授、東京医科歯科大学教授(非常勤)



角埜 恭央 *Yasuo KADONO*
教授／博士(経営学、筑波大学)、工学修士・学士(京都大学)

<研究分野>
経営情報、技術経営、競争戦略、経営学

<経歴> 住友金属工業(現日本製鐵)、マッキンゼー(日米韓)、アクセンチュア、経営科学研究所(MSI)創業、スロベニアEMUNI大学客員教授



黄 巍 *Wei HUANG*
准教授／博士(経営学、東京大学)

<研究分野>
製品開発論、イノベーション・マネジメント、
ものづくり経営

<経歴> 東京大学経済学研究科特任助教、特任研究員



澤口 学 *Manabu SAWAGUCHI*
教授／博士(工学、早稲田大学)

<研究分野>
商品企画・開発マネジメント、
イノベーションマネジメント、持続可能なカイゼン活動、
デザイン思考型リスクマネジメント

<経歴> 鉄鋼系商社、産業能率大学教授、早稲田大学大学院創造理工学研究科経営デザイン専攻教授



田中 邦明 *Kuniaki TANAKA*
教授／博士(工学、法政大学)

<研究分野>
生産システム、ものづくりシステム、生産戦略

<経歴> オムロン(株)ものづくり革新本部生産技術センタ長、オムロングループ企業の生産会社(マレーシア)、設備製作会社(中国)

ICTの進歩には目を見張るものがあり、画像／音声／テキスト／バイタルデータ／センサーデータなど多様な情報を大量／高速／安価に距離の制限なく人や機械から収集し複雑な処理を行い、人や機械にフィードバックすることが可能になりつつあります。ICTの特徴を活かし、イノベーションをシステマティックに創出しビジネスを持続可能にする方法を研究しています。ICTの社会受容性研究も行っています。たとえば、ICT活用介護サービスが事業者／介護者／高齢者／家族／地域社会に受け入れられる条件を解明しようとしています。ICTを活用してビジネスマネジメントそのものを革新する研究も行っています。計算機による自然言語処理によって企業内に存在する膨大な情報資源を高度に活用し、ICTと行動科学を組み合わせることで、企業を良い方向に誘導できると考えています。

専門分野は、知財マネジメント、地域ブランド、ウェル・エイジングです。「知的財産(特許)を活用した経営戦略」として、企業の知的財産活動について研究しています。①ケーススタディを中心とした特許・デザイン・ブランド戦略分析、②データ解析による知的財産評価、③地域ブランドの活性化、④産学連携などについて研究しています。知的財産にはデザインブランドも含まれ、とても身近なものです。また、近年はウェル・エイジングの研究にも取り組んでいます。企業経営や高齢化社会において健康維持を図ることは、人生100年時代の到来により注目されている分野です。企業の戦略や健康データを分析できる柔軟かつ学習熱心な学生、企業へのインタビューを行える積極的な学生を希望します。

経営戦略と情報技術(IT)に関する分野で研究とコンサルティングに取組んできました。主なテーマは、企業組織・社会とITの関係性を経営学の理論を用いて解明することです。例えば、企業経営におけるITの有効な利活用、ITベンダーのソフトウェア工学能力評価、アジアの電子商取引等です。DX、SNS等を含むイノベーションと社会の進化に関わるテーマにも広く興味を持って研究しています。自分が感じた具体的な問題意識に根ざし、世界の知見を活用した無垢なアイデアが、不確実性を増すこれからの社会に大きく貢献するでしょう。皆さんが「イノベーションで世界を変える」という高い志をもってチャレンジする姿を楽しみにしています。主要著書: "Management of Software Engineering Innovation in Japan" (Springer)、「ビジネス価値を創造するIT経営の進化」(日科技連)等。

研究分野は製品開発論、イノベーション・マネジメント、ものづくり経営です。これまでは継続的な開発活動の特徴とする製品・産業における効果的な開発パターンについて調査・研究を進めてきました。現在はデータ(開発プロジェクトデータと産業データ)解析によるゲーム産業の開発活動に関する実証研究、ICTを活用した組織課題の可視化、ものづくり現場データの集約・連携について研究しています。当研究室は事例研究、統計分析及びマルチエージェント・シミュレーションなどの手法を用いて技術経営に関する研究を幅広く行っています。論理的思考能力及び実証研究能力の構築に粘り強く取り組み、主体的に学ぶ学生を希望します。

澤口研では「社会マクロ環境と技術の発展を意識した商品企画メソッド」や「新興国と日本との持続可能なモノづくり」を主な研究テーマにしております。従って、常に企業との連携も考慮して理論と実践の両立を目指します。また本格的なAI時代の到来を見据えて、「AIに適したモノ・コトづくりアプローチ」も最近のテーマです。さらに近年は、COVID-19に象徴されるような時代の変革期を意識して、「不便益(Benefit of inconvenient)」や「対極発想」によるデザインメソッド」などユニークなイノベーションにも挑戦しております。いずれも価値創造の研究テーマです。これらのテーマに興味を持たれた学生は、社会人、留学生も含めて大いに歓迎いたします。最近の著書:「不便益の実装(共著)」(近代科学者Digital)、「はじめての企画・開発メソッド(単著)」(同友館)など

グローバルでの急激で様々な環境変化は製造企業に大きな変革を求めています。日本の製造企業が再びグローバル競争力を獲得するには、これまで培ってきたものづくり競争能力を磨き続け、更にIoT/ロボット/AIなどの新技術を取込んだスマートファクトリーに代表される次世代ものづくりシステムを構築することが解決策の一つになります。次世代ものづくりシステムは、ものづくりに関する全プロセスをモジュール構造化の概念をベースに最適化することで実現できると仮説し、現実の製造企業の具体的な課題を踏まえながら革新的コンセプトの提言や具体的方策についての研究を行います。ものづくりに課題認識を持ち革新的コンセプト構想力、その実現に向けたマネジメント力や実践力を磨くことで、ものづくりを牽引する企業人としての活躍領域が大きく広がります。



長平 彰夫 *Akio NAGAHIRA*
教授／博士(経営学、東北大学)

<研究分野>
研究開発マネジメント、イノベーション・マネジメント、
リスク・マネジメント、知的財産マネジメント

<経歴> 北海道東北開発公庫(現日本政策投資銀行)、通商産業省(現経済産業省)資源エネルギー庁、東北大学大学院教授



名取 隆 *Takashi NATORI*
教授／博士(工学、東北大学)

<研究分野>
技術経営、中堅中小・ベンチャー企業論、
新製品・新事業開発、オープンイノベーション

<経歴> 日本開発銀行(現日本政策投資銀行)



韓 甜 *Tian HAN*
講師／博士(工学、京都大学)

<研究分野>
プロジェクトマネジメント、建築社会システム、
技術経営

<経歴> 青島房産置業(株)、立命館大学客員研究員



古田 克利 *Katsutoshi FURUTA*
准教授／博士(技術・革新的経営、同志社大学)

<研究分野>
経営管理論、人的資源管理論、組織行動論、
産業・組織心理学、カウンセリング心理学

<経歴> 富士通(株)、(株)松下情報システムテクノロジー(現 パナソニックシステムデザイン(株))、関西外国語大学英語キャリア学部准教授



湊 宣明 *Nobuaki MINATO*
教授／博士(システムエンジニアリング学、慶應義塾大学)

<研究分野>
マーケティング/技術経営、システム・ダイナミクス、
宇宙・航空イノベーション

<経歴> 宇宙航空研究開発機構、慶應義塾大学助教、特任准教授、シンガポール国立大学客員研究員

ゲストスピーカー

現場の第一線で活躍する実務家や国内外の一流企業および最先端研究機関から招聘しています。(過年度実績) (敬称略・役職名は招聘時のものです)

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
コンサルティング事業本部 エグゼクティブ・ディレクター 小野寺 寛
持田製薬株式会社
事業開発本部 副本部長 石川 浩
スマートワークス株式会社
代表取締役 酒井 美里
住友生命保険相互会社
Vitality 戦略部 部長代理 北村 英之
キンドリルジャパン株式会社
メインフレーム・サービス事業部 次長 木村 理恵

北海道東北開発公庫(現日本政策投資銀行)を経て、東北大学大学院工学研究科の教授に就任し、2019年4月から立命館大学教授に。技術経営分野の中で、企業の研究開発マネジメント、とりわけ新製品・新サービスプロセスマネジメントを研究し、新製品・新サービス開発の前段階(ファジイ・フロント・エンド)が新製品・新サービスの成功に大きく寄与することを2008年の国際学術誌において世界で初めて明らかにしました。また、特許データを用いた経済分析において、従来の被引用数だけでなく、属性として、特許異議申立、無効審判の数、IPC分類数、発明者数、外国出願の有無、の複数の属性を用いた属性統合指標が有効であることを実証し、研究・イノベーション学会から最優秀論文賞を受賞しています。定量解析にもぜひ興味をもっていただきたいと思います。

私は中堅中小・ベンチャー企業を対象に、イノベーション創出(新製品・新事業開発、オープンイノベーションを含む)、技術マーケティング、競争戦略などを研究してきました。私は金融機関に約30年勤務し、あらゆる分野、業界の調査を手掛けた経験があるため、どんなテーマでも対応できる点が強みです。ゼミの学生は、興味や関心のあるテーマを自由に選択しているので、研究テーマは業種などの限定はなく、多方面にわたります。学生の研究テーマは、マーケティング、イノベーションの普及、新製品・新事業開発に関するものが従来は比較的多く、近年ではネット、スマホアプリ、ゲーム関連のテーマが増えています。研究方法は、事例分析による定性分析、アンケートデータ等を統計分析する定量分析のどちらも指導が可能です。皆さんにはユニークで挑戦的な研究を期待しています。

建設業は製造業と違って、試行錯誤の段階はありません。事前にすべての不確実性を予測することが大事だと認識されています。当研究室では、建築生産活動全体を対象にして、建築プロジェクトに係る各主体とその役割、これらが形成する建築生産システム、及び各生産段階におけるリスク分析などについての研究を行っています。また、中国のプロジェクトとの比較によって、日中建築生産システムの特徴及び他産業との相違を明確にします。近年、中国では、プレハブ住宅、省エネ住宅などの建設により、AI、IoTなどの最先端技術が建設業で数多く導入されています。そこで、産業連携やイノベーションについての日中比較を今後の主眼として研究したいと考えています。中国の諸事情に興味がある学生、留学生及び海外留学を目指す学生を積極的に応援します。

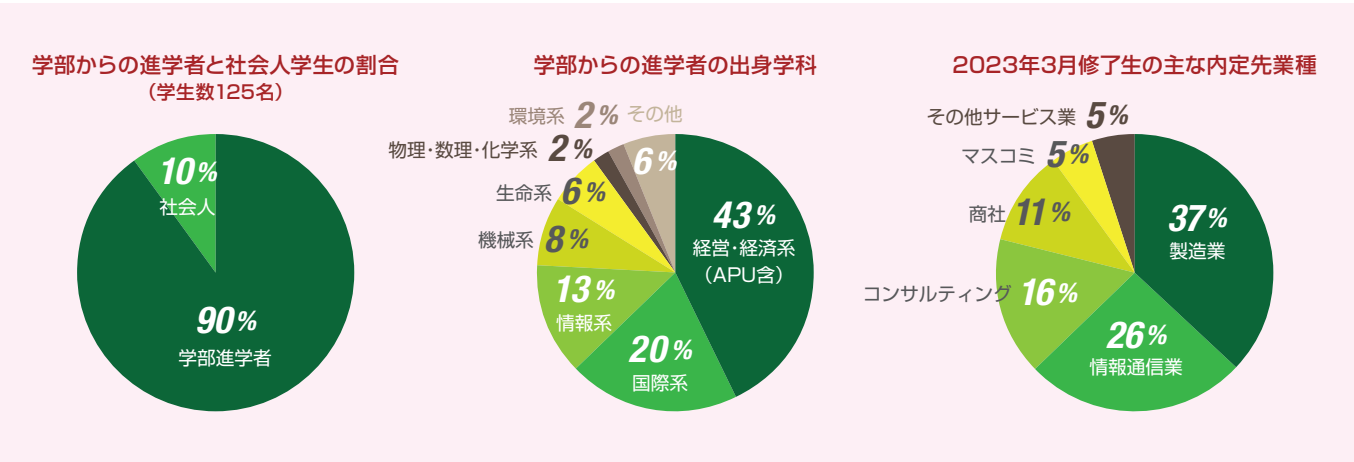
専門分野は、経営管理論、人的資源管理論、組織行動論、産業・組織心理学、カウンセリング心理学です。これまで「人と組織に着目したグローバル企業によるイノベーション創出の国際比較研究」「理系女性研究者の出産・育児と多様なキャリアの形成に関する縦断研究」「第三段階教育における往還的コンピテンシー形成と学位・資格枠組みの研究」等の研究プロジェクトに携わってきました。現在は、組織で動くプロフェッショナル人材のマネジメントに関する研究を行っています。ダイバーシティ・マネジメント、組織開発、リーダーシップ、キャリア開発、健康経営等、興味関心の幅は広いですが、その中心にある研究対象はイノベーションを生み出す人と組織です。社会科学の学術知を創出する方法や、体系的な知を実践に生かす方法を大学院で学んでみませんか。

宇宙航空研究開発機構(JAXA)、フランス留学を経て、大学教員に。専門はマーケティング論、航空宇宙管理学、システム工学です。新技術を起点としたイノベーション創出のための思考プロセスとチームマネジメント、技術製品・サービスの市場普及予測と社会影響評価に関する研究を行います。目指すのは社会人・留学生も含めて文系・理系の多様な人材が集結し、自由に研究テーマを探索する「研究のサファリパーク」。メタバース、カーボンニュートラル、サステナビリティ、電動化、空飛ぶクルマ、スペースデブリ、感覚マーケティングなど、最先端の技術と研究テーマを扱います。働きながら修士・博士(技術経営)の取得を目指す社会人、海外留学や国際学会発表に挑戦する学生を応援します。

学生の進路と支援組織

主な内定先・就職先一覧 ※過去の修了生を含む

アクセンチュア(株)	塩野義製薬(株)	トヨタ自動車(株)	三菱商事(株)
アース製薬(株)	(株)資生堂	日亜化学工業(株)	三菱電機(株)
旭化成(株)	(株)島津製作所	ニチコン(株)	(株)三菱UFJ銀行
アビームコンサルティング(株)	ジョンソン・エンド・ジョンソングループ	日本電気(株)	三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)
(株)イシダ	Sky(株)	日本電産(株)	(株)村田製作所
NTTコミュニケーションズ(株)	住友電気工業(株)	(株)野村総合研究所	ヤフー(株)
オムロン(株)	(株)セブン・イレブン・ジャパン	(株)博報堂プロダクツ	ヤマハ発動機(株)
キヤノン(株)	ソフトバンク(株)	パナソニック コネクト(株)	ユニ・チャーム(株)
キュービー(株)	TIS(株)	(株)日立製作所	RIZAPグループ(株)
(株)キーエンス	東京ガス(株)	富士通(株)	楽天(株)
経済産業省	東京電力ホールディングス(株)	(株)船井総合研究所	リコー・ジャパン(株)
KDDI(株)	東芝エネルギーシステムズ(株)	本田技研工業(株)	ローム(株)



奨学金・研究助成制度（詳細は入学試験要項）

1) 立命館大学独自の奨学金・研究助成	1年次対象成績優秀者奨学金、2年次対象成績優秀者奨学金、学生会奨学金、研究実践活動補助金、英語論文投稿支援補助金、ティーチング・アシスタント(TA)等
2) 学外機関による奨学金・支援制度等	日本学生支援機構大学院奨学金、民間財団・地方公共団体奨学金、日本学術振興会特別研究員制度等

RIMOT(立命館MOT校友会)

RIMOT(立命館MOT校友会)が、修了生ばかりでなく在学生とともに学ぶことができる「知識創造の場」を提供します。
800名以上のメンバーを持つRIMOTのネットワークは、必ずあなたに価値をもたらします。



今井 雄基 さん 博士課程前期課程修了ノネットワンシステムズ株式会社(ネットワンパートナーズ株式会社に出向)

修了後は“Re”MOTできます。

RIMOTは立命館MOTの修了生を中心とした校友会組織です。技術経営をテーマにした各種イベント(勉強会・セミナー・ワークショップ・工場見学等)を企画・運営しています。私は学部卒業後すぐに立命館MOTへ進学しましたが、MOTの価値を実感したのは社会人になってからでした。RIMOTの活動に参画して10年以上経ちますが、RIMOTメンバーを始め、現役学生や教授、外部講師の方々など、MOTを共通のキーワードとしながらも、様々な価値観を持った人との出会いが私の社会人人生を支えてくれています。修了後の活躍の舞台は全国・世界へと広がりますが、貴方がMOTに触れる機会はより一層増えていくことでしょう。RIMOTはこれからもMOTを究めていける場所を提供していきます。

入学試験情報

博士課程前期課程

入学定員／70名	標準修業年限／2年
----------	-----------

<入試日程>

2023年9月入学

	出願期間	試験	合格発表	入試方式
7月入試	6/1(木)～6/15(木)	7/9(日)	7/20(木)	一般・社会人・APU・外国人留学生

2024年4月入学

	出願期間	試験	合格発表	入試方式
7月入試	6/1(木)～6/15(木)	7/9(日)	7/20(木)	一般・社会人・学内進学・飛び級・APU・外国人留学生
11月入試	10/12(木)～10/26(木)	11/19(日)	12/7(木)	一般・社会人・学内進学・飛び級・APU・外国人留学生
1月入試	12/7(木)～12/21(木)	1/28(日)	2/15(木)	一般・社会人・学内進学・飛び級・APU・ 転入学(情報理工学研究科とのジョイント・ディグリー、 理工学研究科・生命科学研究科からの2年次転入学)
2月入試	1/11(木)～1/25(木)	2/17(土)	2/29(木)	一般・社会人・学内進学・飛び級・APU

博士課程後期課程

入学定員／5名	標準修業年限／3年
---------	-----------

<入試日程>

2023年9月入学

	出願期間	試験	合格発表	入試方式
6月入試	4/20(木)～5/11(木)	別途連絡	6/22(木)	一般(英語基準)
7月入試	6/1(木)～6/15(木)	7/9(日)	7/20(木)	一般(日本語基準)

2024年4月入学

	出願期間	試験	合格発表	入試方式
11月入試	10/12(木)～10/26(木)	別途連絡	12/7(木)	一般(英語基準)
1月入試	12/7(木)～12/21(木)	1/28(日)	2/15(木)	一般(日本語基準)

選考方法 ※詳細は入学試験要項でご確認ください。

<博士課程前期課程>	<博士課程後期課程>
【一般・飛び級・外国人留学生】 小論文、面接 【学内進学・社会人・APU・転入学】 書類選考、面接	【一般】 書類選考、面接試験、論文試験(修士論文あるいはそれと同等の著作物、および研究計画書をもって論文試験にあて、面接試験で試問を実施) 【一般(英語基準)】 書類選考、面接試験または電話等でのインタビュー(英語で実施)

入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

博士課程 前期課程	【知識・理解】 A.基礎科目で基礎専門的なMOT科目を学ぶことから、技術経営に関する理論、概念及び方法論を習得するために必要な学力を有する人材を受け入れる。 【思考・判断】 B.研究開発、事業活動、知的資産活用などに関する事例分析能力を身につけたいと考える人材を受け入れる。 C.企業の現場の課題を解決する実習型の講義があることから、産業社会のニーズや、課題解決とイノベーション促進のために戦略、解決策等を考察するための基礎的な論理力、判断力を持つ人材を受け入れる。 【関心・意欲・態度】 D.授業ではディスカッションやワークショップ形式を利用した双方向性を重視していることから、他者と連携、協調して計画的に業務や研究等を実践したいという意欲を持つ人材を受け入れる。 【技能・表現】 E.質の高い課題研究論文や修士論文を完成させることから、技術や製品・サービスの事業化に必要な資料や情報を集め、科学的に探究し論理的に考察し、かつ表現するための基礎的な能力を持つ人材を受け入れる。 F.他者とコミュニケーションして計画的に研究等を実践し、表現する能力を身につけようとする目的意識を持つ人材を受け入れる。
博士課程 後期課程	【知識・理解】 A.新たな価値創造をリードするためのアカデミックな視点での研究を推進することから、技術経営に関する高度な理論、概念及び方法論を習得するために必要な学力を有する人材を受け入れる。 【思考・判断】 B.研究開発、事業活動、知的資産活用などにおける問題点や課題を見出し、かつ高度な問いを立て、新規性の高い発見をしたいと考える人材を受け入れる。 C.中核人材として戦略的・理論的な思考に基づいて行動を実践する視点での研究を推進することから、産業社会における課題解決とイノベーション促進のために高度な戦略、解決策を立案し、提案をしたいと考える人材を受け入れる。